関係代名詞を用いて２文を１文にする方法についての一考
――3 つのルールの適用――

千葉　圭

An idea of a procedure for making a sentence with relative pronoun
--by using 3 rules--

Kei CHIBA

(Received October 31, 2022)

Japanese learners have difficulty in understanding sentences with relative pronoun, as there is no equivalent word in Japanese. We Japanese prefer premodification to postpositive adjective clause. I showed this difference visually. First, I tried to make students understand the sentence including relative pronoun visually, using braces and arrows. Then, I divided one sentence with relative pronoun into two sentences with no relative pronoun. Last, I connect two sentences to one sentence by using three rules. The rules consist of three-step procedures. Find the two identical contents, then replace each one of these contents, and finally move words group with regulations

I aimed to contrive a new method to reach correct answers for everyone like a geometric formula.

It is necessary to understand pronominal declension fully to apply these procedures. I also present a failsafe system to make sure that the connection is valid.

1. 緒言

日本人学習者がまず疑問に思うのは，「関係代名詞とは何だろう？」であり，中学校最初に習う「疑問代名詞・疑問形容詞と何が違うの？」であると思う。疑問代名詞のwhoやwhichを中学で先に学習することと，関係代名詞が機能語（Function Word）であり，対応する日本語が存在しないことから生じる普遍的な疑問である。

例を挙げると，「バスを待っている男の人」，The man who is waiting for the bus「屋根が緑色の家」，The house whose roof is green これらの英文中 who や whose には対応する日本語訳がない。

さらに，日本語と英語の修飾関係にも大きな違いがあり，日本語が「前置修飾」を基本とするのに対して，英語は「後置修飾」になることが多い。（図１参照）

「関係代名詞」は「日本語」には無い「仕組み」であり，この論文では関係代名詞を用いて２文を１文に繋げる手順を３つのキーワードで表し，誰がやっても同じ答えが出る方法を提案する。２つ目の手順では，関係代名詞も代名詞の一種であることから、代名詞の格変化の知識を応用するため，「人称代名詞の格変化」を暗記していることが必須である。

前置修飾(日本語の場合)

「バスを待っている男の人」では，修飾される語,「男の人」の左側に，修飾する語句である「バスを待っている」が前置されて，（バスを待っている）　→男の人　という語順になる。

後置修飾（英語の場合）

The man ←（who is waiting for the bus）では，修飾される語である man の右側に修飾する語句である who is waiting for the bus が後置されている。この時，who は日本語には訳さず，「カッコヤジルシ」という機能だけを持っている。

図１

2. 手順とその適用

2.1 ３つのキーワード

具体的な手順を表す３つのキーワードは(1)見つける:Find(2)置き換える：Replace（3）移動する：Moveであり，詳しい手順は，「（1）同じ内容を表す名詞をそれぞれの文から１つずつ見つける（2）見つけた２つのうちのどちらかを関係代名詞に置き換える（3）置き換えた関係代名詞を，一旦先頭に出して，全体を引き連れて，置き換えなかった方の直後へ移動する」である。

2.2 関係代名詞が人(主格)の場合

手順①の作業

実際に例文を用いて3つの手順を図を用いて説明する。

「バスを待っているあの男の人を見て」を関係代名詞を用いて英語に直してみる。まず，日本語の文を２つに分解する。「あの男の人を見て」＋「その男(彼)はバスを待っている」となる。これらを英語で表し，Look at the man + The man is waiting for the bus. が出来る。この２つの英文に３つの手順を適用していく。手順①「見つける」（図２参照）

手順①　「見つける」

同じ内容を表す名詞をそれぞれの文から１つずつ見つける

Look at the man.

The man is waiting for the bus.

図2

手順②の作業

手順②では手順①で見つけた名詞のどちらか一方を関係代名詞に置き換えるわけだが、（図３参照）「どちらを置き換えるか」はこの段階では特定しない。たとえ誤った方を置き換えても、最終的に正しい文にならないと分かった時点で、戻ってた方を置き換えれば、正しい文ができることになるからである。

「人」の場合は格に従い，who，whose，whomの中から選択する。この時関係代名詞の語尾が人称代名詞 he の格変化に対応しており，「モノ」を表す関係代名詞の格変化，which，whose，which は人称代名詞 it，its，it に語尾の変化が対応している。（図４参照）

Look at the man

The man is waiting for the bus

who

上の文ではなく，下の文の The man を who に置き換えた

図3

「人」の場合

he　his　him

who　whose　whom

「モノ」の場合

it　its　it

which　whose　which

図4

手順③の作業

手順③は「移動する」であるが，この作業は３段階の作業を伴う。すなわち，（1）一旦，先頭に出る（2）全体を引き連れて（3）置き換えなかった名詞の直後に移動して清書するという手順である。(図５参照)「（1）一旦，先頭に出る」は今回のように，元々先頭にある場合はそのステップを省略する。

Look at the man

who　is waiting for the bus

完成形　Look at the man who is waiting for the bus.

図5

2.3 関係代名詞（人：所有格）の場合

「私には父親が有名な画家である友人がいる。」という文を，関係代名詞を用いて英文にする。
この日本語の文を２つに分解する。「私には～な友人がいる」＋「彼の父親は有名な画家である。」
これらを英語で表し，３つの手順を適用していく。（図６参照）

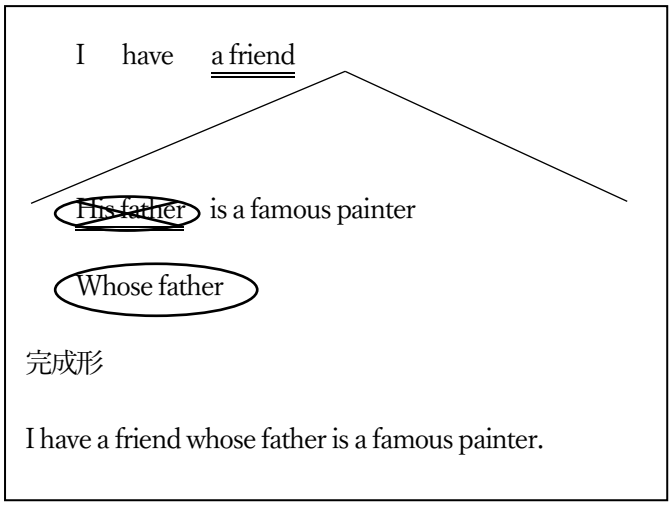

図6

2.4 関係代名詞(人：目的格)の場合

「ジョーンズ博士は多くの人が尊敬している学者です。」という文を関係代名詞を用いて表現していく。
まず関係代名詞を用いない２つの文に分解する。「ジョーンズ博士は～な学者です。」「多くの人は彼を尊敬している。」これらを英語で表し，３つの手順を適用していく。（図７参照）

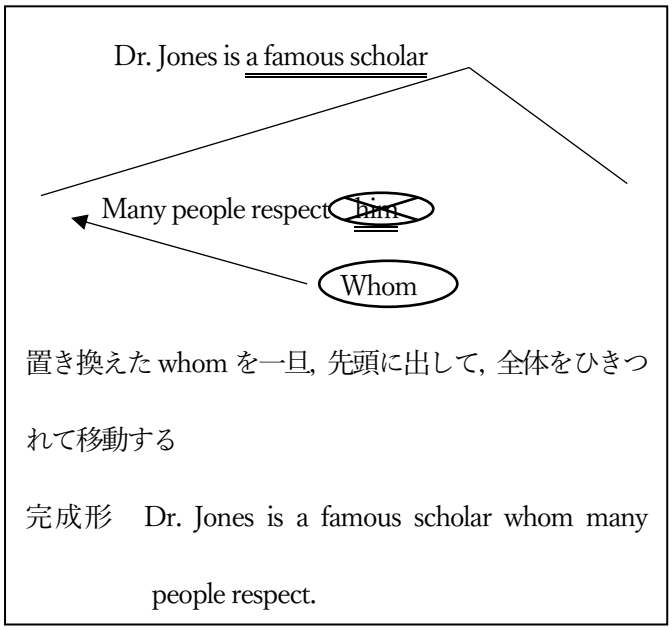

図7

2.5 関係代名詞（モノ：主格）の場合

「昨日私が買った本は面白かった」を２つの文に分解する。「昨日私はその本を買った」＋「その本は面白かった」次にそれらを英語で表し，３つの手順を適用していく。(図８参照)

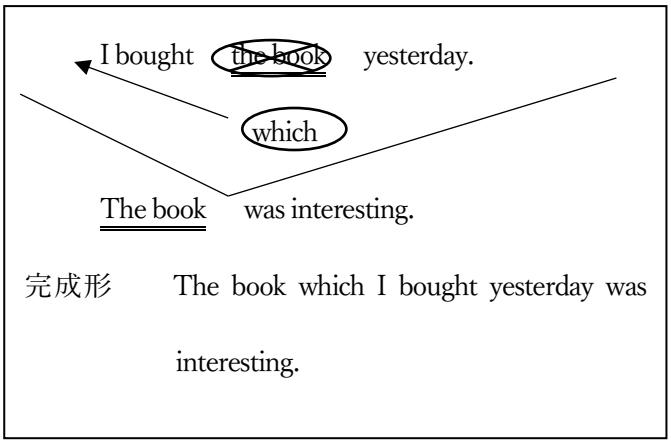

図8

2.6 「誤り」の可能性

最も多い失敗は手順②である。手順①で同じ内容を表す名詞を２つ見つけているので，そのどちらを置き換えるのが正しいのかは，確率的には５０％である。慣れてくると完成形をイメージしながら手順を進めていけるが，関係代名詞節が後置修飾であるということを強く意識しないと起こる失敗である。この「後置修飾」を利用して簡単に確かめる方法があり，「完成形において，関係代名詞で始まる形容詞句を（　）で括り，左向きの←を付けて，意味が通じるかどうかを考える。」という方法がある。（図９参照）もし意味が通じなければ、手順②に戻って反対を置き換えてやり直すことで誤りを訂正できる。（図８参照）

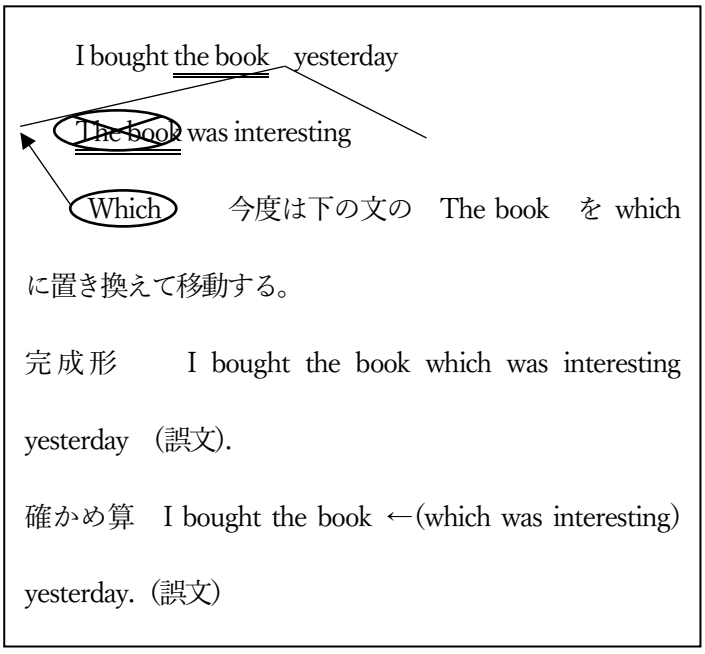

図9

3. 今後の課題

「３つのルール」自体は短いキーワードで覚えやすいのに対し、第３の手順の移動は、最後のステップが他のルールより長く，指示が細かい。それ故に間違う可能性も多い。実際に学習者の多くが最後のステップで、「置き換えなかった方の直後」へという作業を雑に行うことで完成形が誤文となるものが多かった。この点を改善して，もっとシンプルな説明を考えたい。また，応用として前置詞＋関係代名詞の場合の処理，複合関係代名詞などについても考察が必要である。煩雑な手順ではあるが，誰もが関係代名詞を使って後置修飾の文を作るという目的はひとまず達成できたので，今後このようなアイデアを応用できる分野を探っていきたい。

参考文献

枡矢好弘・福田稔（1996).『学校英文法と科学英文法』研究社
中野幾雄（1985). 『関係代名詞・関係副詞の使い方のすべてがわかる本』明日香出版社
R. Declerck (1991). A Comprehensive Descriptive Grammar of English. Kaitakusha.
Andrew Radford (2016).
Analysing English Sentences, 2nd Edition. Cambridge University Press.